

# Lina LOHAS通信

## Lina LOHAS通信



= ドイツ(ソルーナ本社・工場)と、  
イタリアアヴェララ農園に行ってきました！ =

なんと難解な化粧品なの！？と、どなたも最初は驚かれます。スパゲリック法と言われても、さっぱり分かりません。8年前“ソルーナ”が日本に上陸し(メイムプロダクツ・前田社長の尽力で)、「これこそ、世界に二つとないすごい化粧品なのよ！」と、前田社長は歓喜の声をあげて私にお話してくださいました。でも、その時はまだ「すごいんだ～」と思っただけの私でしたが、毎日商品に触れることにより、その品質の滑らかさ、香りの素晴らしさ、肌への浸透力の良さ・・・確かに今まで感じたことのない優しさと品質の良さが分かってきました。

スパゲリック法とは、500年前のアルケミー(錬金術)の研究をしていた医学の中で、芸術とまで言われてきた医薬品製造方法のことなのです。スパゲリックの概念は、医学者であり哲学者でもあったパラケルススによって生み出されたものです。「病気とは、調和の取れた相互作用のバランスが崩れた状態とみなし、治療とは、身体をもとのバランスの取れた状態に戻すこと」という考えです。



フィリップス・パラケルスス



500年も前のこのような文献をもとに、独自のスパゲリック法を見出したのが、“ソルーナ化粧品・医薬品”の生みの親、アレクサンダー・フォン・ベルヌス男爵(1880年~1965年)です。それから70~80年、“ソルーナ社”は、かたくななまでに、この最後の錬金術師・アレクサンダーが生み出した処方箋にのっとり、現在まで医薬品も化粧品も製造しています。

アレクサンダー・フォン・ベルヌス男爵

スパゲリックの薬剤は、身体と精神の両方に同じ効き目があります。化粧品についても同じ植物原料で作られているわけで、全く同じことが言えます。原料として使用される植物は、\*環境学的視点に基づき、イタリアアルプス・アヴェララの高地にある農園で栽培される最高品質なもので、世界的にも他に類を見ないエネルギーの凝縮された花々なのだと言えます。

環境学的視点とは・・・太陽と月の力を、植物・花・金属・ミネラルの中に封じ込められたのなら、永遠なるエネルギーとなる、という考え方。

## = アヴェララ農園 =

農園では、機械も、そして化学肥料や添加物も一切使用していません。植物に与える水も、サン・ペリグリーノという最高の水源に近く、この土地にはいい水が湧いていますが、さらに完璧で綺麗な水にするため、マロニエの木を使用した灌漑システムを使っています。



マロニエの木の灌漑システム

全ての花は手摘みで、さらにその花のもつ活力が一番強い時間、例えばカモミールなら午前6時～10時の間に、キンセンカは正午にという風に収穫されます。摘まれた花は、絹の布の上に置かれ、太陽のもとで乾燥されるのです。カレンドラ(トウキンセンカ)の花も、手摘みされた後、細かい小さな花びら1枚1枚をがくから丁寧に分けていきます。花が原料になり、がくは再利用されるため、地中へと戻すのだということです。



絹の布の上で乾燥させているカモミール

私は、2000年、2002年、今回と3回目の視察ですが、このアヴェララ農園は7年前に訪問したその時と何の変化もなく、淡々と宇宙のリズムを刻んでいるという感じです。変わらぬ風が吹き、生き生きとしたミントの緑の葉と、美しく咲き誇った赤いバラが眩しいです！



生き生きと元気なミント

八角形のパピリオン。  
農園の頂上にあります。



畑と対峙している山頂には、古い教会の塔が高く天に伸びていて、ソルーナ農園にある、八角形の屋根のガラスのパピリオンの中の植物は、空からもらうパワーはもちろん、向かい側の教会の鐘の音を聞くという素晴らしい環境でゆっくりと時間をかけて、最高の化粧品へと変化しているのです。ふくよかなバラの香りのローズクリームを肌に置いてみると、遠くに教会の鐘を聞いたような安らかさに包まれます。

“ソルーナ化粧品”の原料(花々たち)は、イタリアの奥深いこのアヴェララの地で、太陽・月・星・水、それに、植物をこよなく愛してやまない十数名の人々の手によるコラボレーションで大切に育てられています。アヴェララの地から遥か遠い日本の私たちに思いをはせながら、植物たちは生き生きと育っているのです。古き時代に、マリーアントワネットが使っていたといわれる化粧品と同じ処方のクリームを、現代に生きる私たちが使えるというこの真実。“ソルーナ社”にありがとう・・・ですね！



Lina Green  
TEL 054-205-0308

